

「同時多発」、「変幻自在」、「機能拡張」。 創造・発信・交流を生み出す、 3段構えのワンルーム・アトリエ



1. コンセプト

3つの要素ががっちりかみ合う立体空間で、相模原にしかないアートの場を創ります。

大空間で「同時多発」的に多様な活動・交流が生まれ革新が起る事、「変幻自在」にしっかりと作品を創造・展示できる事、活動を確実に支え、将来的な更新性のある「機能拡張」がある事。この3つが後継施設に必要だと考えました。そこで私たちは、様々な活動を自由に繰り広げることのできる「アートヤード」、地域でアートを創造し、世界へ発信する「アートコンテナ」、これらを支えながら様々な活動を活性化させる「アートホール」の3つの要素が立体的に重なることで生まれる、大きなワンルームのアトリエのようなアートラボを提案します。

敷地周辺は、大規模商業施設、リニアの開通、研究所や工場の存在、大学と地域の連携した活動等、多種多様な魅力に溢れています。

3つの要素によって同時多発的に多様な活動が起こるこのラボは、3つの区の連携によって多様な魅力を生み出す相模原市のアイデンティティを体現する場所として、最も相応しいと考えます。

「同時多発」的な活動の庭、「アートヤード」

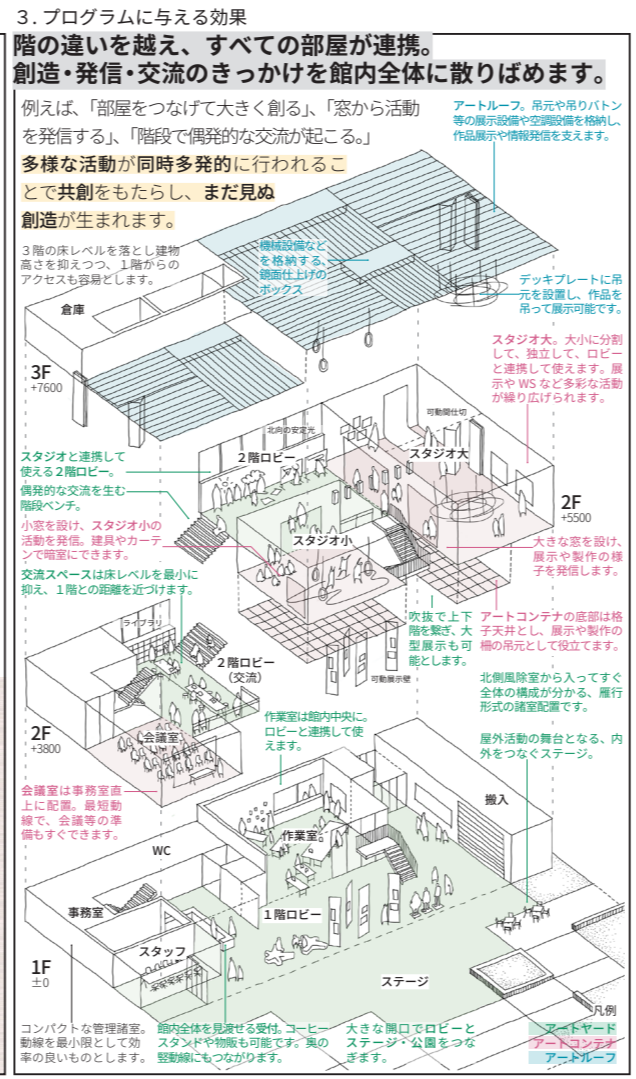
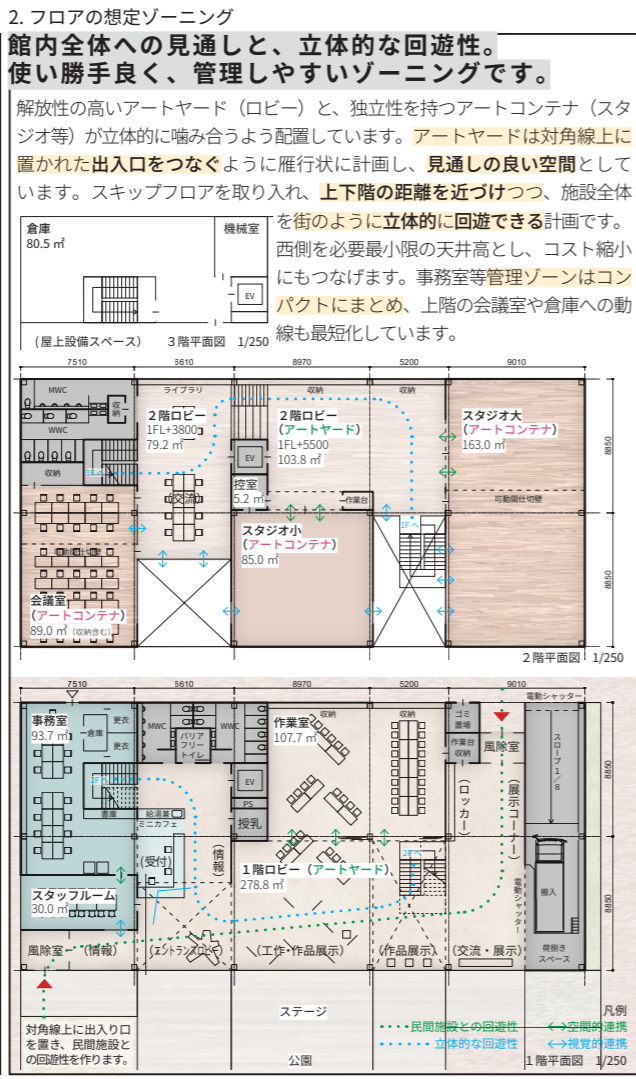
「アートヤード」はあらゆるアート活動を支える活気にあふれる庭であり、工房や舞台です。老若男女誰もがアートを実践し発信していくことができます。その活動が更なる人々を惹きつけ、新たな交流の循環を生み出します。民間施設と連携し、街の回遊性を促すハブにもなります。

「変幻自在」に創造と展示。「アートコンテナ」

「アートコンテナ」は集中しての作業や静かに作品を鑑賞できる宙に浮いた空間です。隣接するアートヤード(ロビー)と連携することも独立・分割して使うことも自由自在です。製作や展示の使い勝手、フレキシビリティを追求し、美術と向き合う非日常性を生み出します。

「機能拡張」で施設を支える、「アートホール」

「アートホール」は舞台装置のように活動を支える装置です。吊元や照明などの作品設置や製作に必要な機材、機械設備を備え、施設を環境を適切に整えます。「アートヤード」から直接メンテナンスでき、将来的な更新性や機能拡張性も兼ね備えています。



4. 持続可能な施設運営

仕上は質実に、構造は剛健に、環境は柔軟に。

アートを支えるタフな仕上げ(パース参照)でも徹底して創造と発信を支えます。制作や設置で床や壁が汚れたり、壁にビスや釘を打つことが想定されることから、仕上げは特殊なものを選び、修繕しやすく安価でタフな素材を選定します。1F作業室やワークコーナーの床は水洗いのできる土間コン、壁は汚れが目立たず木目調の穴埋めできる合板。展示の頻度が多いスタジオ大は白塗装、床はビス打ちも可能なフローリングとします。極力自産材を利用します。

5. 複合施設内に設置される民間施設との連携

アートヤードが創る街の回遊性。

敷地周辺には民間施設や公園、車両基地、商業施設の空地など、「都市の庭」とも言える大小の余白が点在しています。「アートヤード」は新しい「都市の庭」として機能し、民間施設と街に回遊性をもたらします。具体的には、体軸線上に配置された出入口と斜めに雁行する平面によって、人の流れを作ります。また、民間施設の活動と屋内外で連携し、敷地全体を使い倒します。優先交渉者の提案を尊重し、公園を除く外構は変更せず、建物本体の変更についても協議を重ね柔軟な対応を行います。

6. 公園との連続性

公園につながり、街に愛される顔。

優先交渉者の提案「公園につながる開口とステージ」を踏襲します。公園とアートヤードが連携し、内外に活動を展開します。大きな開口が活動を開き、通行者や公園利用者に興味を抱かせ、来館者の増加につなげます。コンテナの白い壁は街の大きなキャンパスともなります。



8. チーム体制

アートと建築に精通した、柔軟なチーム体制です。

様々な方々の要望、使い勝手を考慮しながら柔軟に設計を進めていきます。基本設計にあたっては建築ワークショップの実施を検討し、WSや街づくりの専門家も招聘します。管理技術者は国際的に多くの美術館の設計を手掛けた経験も豊富です。意匠技術者は国内公共建築への確かな知見があります。アート設置の専門家とも協働し、創る人の目線からも最適なアドバイスを取り入れます。

ワークショップの過去実績